

令和5年度 第42回

わたしの主張裾野市大会

発表作品集



裾野市教育委員会

## 第42回 わたしの主張裾野市大会

「わたしの主張裾野市大会」とは、毎年6月に裾野市教育委員会と裾野市青少年育成推進員会が協力して開催する、市内各小・中・高校生の代表児童・生徒の主張（作文）発表会です。

子どもたちが、日頃考えていることを主張として広く市民に訴える本大会は、発表する子どもたちにとっては、自分自身が「社会の一員である」という自覚を持つきっかけづくりの場に、また子どもを育て見守る立場にいる地域の方々にとっては、改めて地元の子どもの思いを知り、地域の中での青少年健全育成に対する理解と関心を深められる場となっています。

この作品集は、「第42回わたしの主張裾野市大会」の発表作品をまとめたものです。

是非多くの方々にお読みいただき、子供たちの熱き思いに共感いただけますと幸いです。

※「第42回わたしの主張裾野市大会」は、当初6月3日（土）実施予定でしたが、台風による悪天候により、残念ながら直前に中止となりました。そのため、発表の場の創出を主目的に、7月31日（月）に裾野市生涯学習センター学習ホールにおいて改めて開催しました。

◆ 目次（発表順に作品を掲載） ◆

【小学生の部】

裾野市の未来	裾野市立富岡第一小学校	六年	柏木 拓人 …	1
大切な家族	裾野市立富岡第二小学校	六年	樋口 沙耶伽 …	2
動物の命を預かる上で	裾野市立須山小学校	六年	大澤 愛海 …	3
生きてみませんか	裾野市立向田小学校	六年	田尻 愛理 …	4
野球が教えてくれたこと	裾野市立千福が丘小学校	六年	滝澤 悠月 …	5
自信を持つ心	裾野市立南小学校	六年	中畑 美南 …	6
ポジティブとネガティブの間で	裾野市立東小学校	六年	西岡 武優 …	7
新しいコミュニケーションツール	裾野市立西小学校	六年	金城 実羽 …	8
その人らしさを出す勇気と受け入れるあたたかさ	裾野市立深良小学校	六年	佐藤 杏胡 …	9

【中学生の部】

誰もが認めあえる世の中に	裾野市立富岡中学校	三年	河野 咲菜 …	1 0
今を生きる	裾野市立須山中学校	三年	中村 彪雅 …	1 1
いつもありがとうという感謝を胸に	不二聖心女子学院 中学校	二年	長谷川 結菜 …	1 2
広がれ！子どもの権利条約	裾野市立東中学校	三年	加藤 優那 …	1 3
みんなが幸せになれる値段	裾野市立西中学校	三年	笹原 怜夏 …	1 4
自分自身を変える	裾野市立深良中学校	三年	井上 愛彩 …	1 5

【高校生の部】

世代を越えた交流を	不二聖心女子学院高等学校	一年	本柳 亜呼 …	1 6
タンパク質不足の救世主	静岡県立裾野高等学校	二年	勝又 琉心 …	1 7



すそのし みらい  
裾野市の未来

裾野市立富岡第一小学校 六年

かしわぎ たくと  
柏木 拓人

「裾野市は、これからどんなまちになるのだろう。」

みなさんは、そのような事を考えたことはありますか？現在、裾野市ではウーブン・シティの建設が進んでいます。これは「未来のまち裾野」への第一歩となるのではないかと、ぼくは思っています。

ぼくは、毎週ウーブン・シティの建設の様子を記録しています。工場の跡地だった場所に、今では建設用の足場がたくさん建ち、中の様子もあまり見えなくなってきました。また、建設現場の警備員さんとの話からは、一つのまちが生み出される大きな期待が、世界中から集まっていることも知りました。ウーブン・シティは、二〇二五年頃に最初のエリアがオープンするそうです。新しいまちが生まれることを考えるだけでも、便利で快適な未来を想像することができます。そして、このウーブン・シティ建設の様子や警備員さんとの会話を通して、  
(未来のまちづくりに必要なことって、どんなことだろう。)

と、ぼくは気になるようになっていました。そこで、自分なりに色々調べてみることにしました。

まずは、自動車です。未来のまちでも、自動車は生活を支える大切なものとして活躍していると思います。未来の自動車は、人が運転する必要がなくなり、誰でも気軽に移動することができるそうです。また、電気自動車が普及していて、排気ガスを出さない環境に優しい自動車になっているようです。このように、未来のまちでは地球の環境を考えた技術が発達していて、ぼくたちの生活を守ってくれます。

次に、未来の暮らしです。現在の暮らしでも、テレビやエアコン、パソコンなどといった便利なものが多くありますが、未来ではさらに便利で快適になっているようです。AIなどを活用して、あらゆる家電を自動的に操作して便利で快適に暮らすことができるスマートホームでの生活ができます。

自動車や暮らしに注目して調べてみるだけでも、今よりも暮らしがもっと便利になっていることが想像できます。さらに、便利になった分だけ時間のゆとりも生まれるはずですよ。

ぼくは、五年生のときに、「未来のまち裾野」という題の絵をかきました。そのときは、裾野市が都会になれば、もっと有名になると思いながらかきました。しかし、建物がたくさん建ち、人が集まり、にぎやかになって注目されればよいわけではないと、今のぼくは思います。

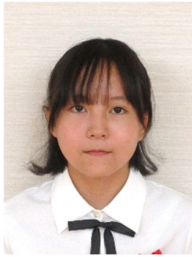
まず、まちづくりで大切にしてほしいのは、自然との調和です。現在の裾野市は、自然がとても豊かです。自然に優しいまちづくりはもちろんのこと、今ある自然をこわすことなく守り続けていくようにすることが大切だと思います。

そしてもう一つ、人と人とのコミュニティが豊かなまちづくりを支えていくことです。どんなに便利であっても、人々との関わりが少ない生活は幸せだと思いますか？便利で快適になったことで生まれた時間のゆとりを上手に使って、人との関わりがもっと豊かになる活動を考えていくことが必要だと思います。

未来の裾野市が都会になったとしても、様々な課題があるはずですよ。その解決のために、市民であるぼくたちが何をすればよいのか解決法を探しながら、裾野市の未来を真剣に考えていくことが大切だと思います。

このようなことを考えるだけでも、自分達の未来について興味を持つことができますし、その未来を作っていくのは、ぼくたちなんだと実感します。これからも裾野市の未来についてたくさん調べて、自分の見方を持ちながら考えていきたいと思っています。

みなさんもぜひ、未来について興味を持ち調べて考えてみてください。そして、未来のことをもっと好きになってください。未来のことについて想像すると、きっと楽しくなるはずですよ。そして、裾野市が今よりももっと大好きになれるはずですよ。



たいせつ かぞく  
大切な家族

裾野市立富岡第二小学校 六年

ひぐち さやか  
樋口 沙耶伽

わたしには、大切な家族がいます。みなさんにもそれぞれ、大切に思う家族がいますよね。家族は、たくさんけんかもしますし、言い合ったりすることもあります。落ち込んでいるときに相談に乗ってくれたり、大変なときに支え合ったりする大切な存在です。

わたしのお父さんとお母さんは、いつも家族のためにがんばってくれています。朝早くから仕事をし、家に帰ると休まずすぐに食事の準備や家事などの、家族のための仕事をたくさんしてくれています。そんないそがしい中でも、家族みんなそろって、夕食を食べながらいろいろな話をするとき、お父さんとお母さんと一緒にいられて幸せだなと感じます。また、学校で友達とけんかをしてしまい落ち込んでいるときには、

「大丈夫。何でも聞くと。ため込まずに話せることを言ってね。」

と言ってくれて、心が軽くなりました。

それから、わたしにはお姉ちゃんが二人います。わたしたち三姉妹は、性格もしゅみも全然ちがいますが、三人で買い物に行ったり、流行っているものの話をしたり、ゲームをして遊んだりするとき、とても楽しくて、姉妹がいて良かったなと思います。時々、思い出せないくらいささいなことで姉妹げんかもありますが、やっぱりお姉ちゃん二人は大切な存在です。

わたしは、家族と一緒にいて思うことがあります。家族と一緒にいるときには、家の外にいるときとちがって、ありのままの自分でいられるということです。もちろん、家の外で友達と会って話したり遊んだりするときも楽しいのですが、家族と話するときとは少しちがいます。家族には良いこともそうでないことも、気をつかわずに話すことができるのです。

「今日の学校の運動、疲れた。」「今日、こんなおもしろいことがあったよ。」

など、たくさん話を聞いてもらったり、時にはちょっとわがママを言ってしまうこともあります。わたしたちが高校生くらいになると、親に対して反抗期がくる人もいます。いらいらをぶつけてしまったり、思ってもいないひどい言葉を使ってしまうこともあるかもしれません。それでもきつと、お父さんやお母さんは、そんなわたしたちのために、時にはおこってくれたり、時にはやさしく話してくれたりするのではないかなと思います。どんな時でも一緒にいてくれるのが「家族」なのだと思います。

家族の大切さの理由は、数え切れないほどあると思います。そんな家族に対して、わたしたち一人一人ができることが三つあります。

まず一つ目は、家族に感謝を伝えることです。毎日、がんばってくれている家族に、「いつもありがとう。」と一言伝えることで、(今までがんばってきてよかったな。)(これからもがんばろう。)と思ってくれるかもしれません。それに、感謝を伝える自分もうれしくなるでしょう。

二つ目は、家の仕事のお手伝いをすることです。せんたく物をほしたり、食器あらいをしたりすることで、お母さんの負担も減るし、喜んでもらえます。また、家族みんなそろって話せる時間はとても貴重です。わたしたちが家の仕事を手伝うことで、いそがしいお父さんお母さんと一緒にいられる時間が少しでも増えると思います。

最後に三つ目は、家族といる時間を大切に、少しでも多く時間を取るということです。いつもいそがしい家族を元気にするために、平日はたくさん話をし、休日には一緒に出かけたいと思います。家にいる時間は、仕事のことも忘れて、少しでも楽しい時間を過ごしてほしいです。

いつも当たり前のように一緒にいる家族。みなさんも、そんな一番身近で一番大切な家族に、感謝の言葉を伝えたり、たくさんお手伝いをしたりして、家族の時間を大切にしてみようか。



どうぶつ いのち あず うえ  
動物の命を預かる上で

裾野市立須山小学校 六年

おおさわ あいみ  
大澤 愛海

ある日私がテレビをつけると、ショッキングなニュースが流れてきました。

「野良ねこの死体が見つかる。毒殺か？」

私の家でも、犬を飼っています。他人事とは思えませんでした。

みなさんは、ペットを飼っていますか。私は動物が大好きです。見ているだけで幸せになるし、とても可愛いです。私は以前、ねこを飼っていたことがあります。今も、犬を一匹飼っています。その子は体が大きく、黒色で、おしりがかゆいとき、床でこすりながら移動する可愛い特技をもっています。すくなついでいて、私はこの子が本当に大好きです。だからこそ、ねこのニュースを見たときは、すごく悲しい気持ちになりました。毒の入った食べ物を食べさせる人の気持ちが分かりません。

ペットになる動物は、人間が勝手に飼う、勝手に品種改良をされて生まれた種類もあります。それは、動物がたのんでやったことではありません。だからこそ、ペットを飼うときには、ひどいことはしないで、たくさん可愛がってほしいと思います。

私がおすすめる動物の可愛がり方は主に二つです。一つ目は、健康を考えた食べるものをしっかりあげること。そのペットにあった食事がきつとあります。二つ目はコミュニケーションをしっかりとること。散歩をしたり、なでてあげたり、とにかくいろんなふれ合いをたくさんしてあげると、きつと相手もうれしいと思うし、悲しい気持ちにさせないと思います。

ねこのニュース以外にも、私が気になっている話があります。それは保護ねこや保護犬の「殺しよ分」問題です。令和二年には、ねこと犬だけで、約二万匹が殺しよ分されてしまいました。その方法もとても残こだと聞いたことがあります。動物の命だって大切なのに……本当に悲しいです。

保護された動物は、「里親」という仕組みで助けることができます。飼っている動物がどうしても飼えなくなったら、捨てずに里親に出すことで、殺しよ分を減らすことができると思います。私はこの「里親」を知ったとき、この話が、もっと広まればいいなと思いました。

動物の命を預かる以上、ペットを飼う人たちは、最後まで命を大切に守らないといけないと思います。私一人では、世界中の困っている動物を助けることはできず、自分の身近な動物を大切にすることしかできません。しかし、みんなでこの気持ちをもつことができれば、悲しい思いをする動物を減らすことができるはずです。まずは、近くにいる動物や、今飼っているペットを可愛がることだけでもしてみてください。私も今日帰ったら、いつもよりたくさん、動物とふれ合いたいと思います。



## 生きてみませんか

裾野市立向田小学校 六年

たじり あいり  
田尻 愛理

私は、なぜ自殺があるのだろうと思ったことがあります。

ある日のことです。私は、ティックトックというアプリでおすすめの動画を見ていました。すると、一つの動画に目が留まりました。その内容は、女子高生の二人が飛び降り自殺を配信したことについてでした。自分たちの自殺するしゅん間をとっていることにぞわっとしました。一人はそく死、もう一人は、はん送先の病院で死亡が確認されたそうです。二人は自殺することを怖がっていましたが、「大丈夫。」「せーので行くよ。」と声をかけ、うでを組みながら、後ろ向きで飛び降りるしゅん間が映っていました。一人のツイッターには「早く死にたい」という投稿がされていたそうです。私は、心が痛みました。二人は、どうして自殺をするしゅん間を配信したのか。どうして自殺をしたのか。何度も考えましたが答えは出てきませんでした。

この女子高生以外にも、悩みをだれにも言えなくて、一人でかかえこみ自ら命を絶ってしまう人もいます。ここ最近では、自殺者が増えていると何かで聞いたことがあります。

自分はしたら自殺がなくなるのか考えました。けれど、答えは出てきませんでした。

私には、ネットの友達があります。最初は、何もなく、普通のおしゃべりをしていました。でも、ある日、その友達から相談がきました。「学校に行くのがつらい。」「死にたい。」などのことを言い出しました。私は、あせりと困惑でいっぱい、何をしたらよいのか分かりませんでした。とりあえず話を聞き、落ち着かせました。友達は、「学校に行っても何も上手くいかない。」「友達関係も上手くいかない。」と話してくれました。あまり学校にも行っていませんでした。

「そうなんだ。」

と聞く私に、友達は、いろんなことを話してくれました。どのように声をかけていいのか分かりませんでしたが、

「大丈夫。人間はだれだって辛いことがあるし上手くいなくても、学校に行こう。」

と、自分の思いを言ってみました。すると、友達は、

「もう少し、生きてみる。」

と言ってくれました。死にたい気持ちは、まだあるかもしれないけど、生きることを選たくしてくれました。私は、友達のことを止めることができ、安心しました。

今、その友達は、少し辛いときもあると思うけれど、学校に通っています。もし、あの時、話をしていなかったら、自ら命を絶っていたかもしれない、そう思うと、私のアドバイスも役に立ったのかなど思いました。これからも、楽しいことだけではなく、困っている事や辛い事など、いろんな話をしていこうと思いました。

今も、何かになやんで、死んでしまいたいと思っている人がどこかにいるのかもしれませんが。生きてると苦しい時もあります。そんな時は、一人でかかえこまないでだれかに話してください。生きていれば、何かいい方向が見えてくるかもしれません。家族からもらった命を、自分の力で、消さないようにしてください。

私は、辛いかもしれませんが、

「生きて、みませんか。」

と声をかけたいと思います。



## やきゅう おし 野球が教えてくれたこと

裾野市立千福が丘小学校 六年

たきざわ ゆづき  
滝澤 悠月

ぼくは四年生の二月に、友達にさそわれて野球を始めました。最初は野球のルールやボールのとり方、バットのふり方などが分からなかったけど、今はだいぶ覚えてきました。ぼくが野球をやって良かったと思うことは、あいさつや発表がものすごくできるようになったことです。「一秒の言葉」を、言えるようになりました。

「一秒の言葉」とは、相手に伝えられる、仲間を助けられる言葉だと監督が教えてくれました。「ありがとう」や「ナイスプレイ」など日常や野球で使う言葉をたくさん覚えました。むずかしいボールをとれたとき、スライディングキャッチをしたときなどは、「ナイスプレイ」「ナイスキャッチ」などの言葉を使います。言われたときは、(ありがとう、とってよかった。)という気持ちになります。ミスをしてしまったときは、「次、次！」と言ってくれます。言われると、(次は絶対取ろう。)と思い、気持ちがほっとして、安心します。「ライト！前だぞ！」と、ボールがどこに飛んできたかを言われたときには、(来たんだな。ありがとう。)という気持ちになります。

グラウンドでは、かけ足できびきび動くことや仲間をほめる力をもっと付けたいです。野球は仲間とやるスポーツなので、思いやりの言葉やかけ声をみんなに聞こえるように言わないといけません。だから、みんなと練習する時は、仲間を助ける声や仲間をほめる声をもっと増やしたいです。

「一秒の言葉」を使うことは、学校生活でも同じだと思います。友達が手伝ってくれたときや、いいことをしたときは、「ありがとう」などの一秒の言葉を伝えるようにしています。ぼくは、クラスで配達係をしていますが、たのんでいなくても進んで配達を手伝ってくれる友達がいます。そういうときは、一秒の言葉だけではなく、帰りの会の友達のいいところのコーナーで話すようにしています。落とした物を拾ってくれたとき、放送委員会の仕事があるときに友達が教室に荷物を持って行ってくれたときにも、一秒の言葉を伝えるようにしています。

ぼくは、試合が楽しみになりました。バッティングや守備ができるからです。特にバッターボックスに入るとやる気が出ます。「絶対に打つぞ」と気合いが入ります。ただ、きん張しすぎないように、自分の好きなバッティングをしようとポジティブに考えています。守備ではとりそこなっても絶対に前で止めること、タイミングを合わせてボールを取ることを意識しています。ランナーでは、必ず監督からのサインを見て、ミスをしないランナーになりたいです。

自主練もやっています。バッティングセンターへ行ったり、一人でかべあてをしたり、友達とバッティング練習をしたりしています。バッティングセンターでは監督やコーチに言われたことを思い出して、どうやったら飛ぶだろうと考えてやっています。ストラックアウトでは、投げ方を変えたり、球速を考えたり、コントロールを意識してやっています。

野球というスポーツはみんなで助け合ったり声をかけ合ったりしないといけないので、すごくむずかしいです。ぼくは、最初は野球をやるのがいやだったけど、今は楽しくなりました。野球でスタミナもつきました。千メートルも軽く走れるようになりました。

野球は大切なことを教えてくれるスポーツです。ぼくは、野球を通して大切なことを学びました。みなさんも野球をやってみませんか。そして、野球に興味を持ちませんか。





じ し ん も こころ  
自信を持つ心

裾野市立南小学校 六年

なかはた みなみ  
中畑 美南

みなさんは、長い間何かをがんばって取り組んでいることがありますか。私にとって、それはクラシックバレエです。

私は、三才からバレエを始めました。きっかけは、音楽に合わせて体を動かすことが好きだったからです。何となく始めたバレエも、気が付けば八年経っていました。その中で、私が、バレエを通して特に成長したと感じる部分は、精神面です。

バレエと聞くと、どんなイメージを持つでしょうか。ほとんどの人は、はなやかなぶ台でおどるすがたをイメージするだろうと思います。きれいな衣しょうを着て、メイクをし、ごうかなぶ台でおどっていて、きらきらとしたイメージを持っているのではないのでしょうか。しかし、そんなはなやかなぶ台は年に数回で、毎日の地味でつらい練習のくり返しに比べると、ほんの一しゅんです。毎日の練習は、ストレッチ、バーレसन、ぶ台リハーサルが基本です。練習中に足にマメができて皮がむけたり、先生の指導がきびしかったり、つらいことを言い出したらきりがありません。

しかし、この地味でつらい練習をのりこえてこそ、あのはなやかなぶ台をひろうすることができるのです。自分をレベルアップさせることや、みんなで一つのぶ台を成功させるためなら、毎日の辛い練習もがんばって乗りこえようと思っています。そして、何かを成しとげようとするときには、努力をし続けることが大切だと知ることができました。

そんな思いを強く感じるようになったきっかけは、コンクールに出場したときのことです。私は三年生のときに、先生のすすめで初めてコンクールに出場しました。コンクールでは、慣れない状況よにとてもきん張してしまい、笑顔でおどることができませんでした。良い結果を残すことができず、本当にくやしかったです。また、ライバルや順位を気にしてしまい、集中することもできていませんでした。このコンクールで、私は、ふだんの練習通りのバレエをひろうするためには、毎日の地道な練習のくり返しがとても大切だと知る良い経験となりました。その後のコンクールでは、おどる前に少しきん張したり、笑顔が足りなくなってしまう場面もありましたが、ふだんの練習をがんばってきたので、自信を持っておどることができるようになりました。そして、ついに四年生のときに、入賞することができました。

私は、発表会やコンクールなどのぶ台を通して、人前に出て堂々とふるまうことができるようになりました。ぶ台であまりきん張しないでおどれるようになったことはもちろん、学校の授業で前よりも積極的に発表できるようになり、人の目を見て大きな声で自分からあいさつができるようになりました。つまり、“自分に自信を持てる”強い心が身に付いたのです。

そして、私が八年間もバレエを続けることができているのは、周りの方々が私を支えてくださっているからだということも大切にしたいです。家族は、必要なお金を出してくれたり、送りむかえをしてくれたり、いつも見守ってくれます。他にも、温かい指導をくださる先生方、ぶ台のために働いてくださるメイクさん、音きょうさん、照明さん、大道具さんがいます。バレエに関わるすべての方のおかげで、私は今でも楽しくバレエを続けられているのだなど、感謝の気持ちでいっぱいです。

これからは、最上級クラスの高等科に上がります。精神面をきたえ、下級生の見本となるようなふるまいや行動ができるようになりたいです。そして、いつも感謝の気持ちをわすれずに、これからもバレエを続けていきたいです。



## ポジティブとネガティブの間で<sup>はざま</sup>

裾野市立東小学校 六年

にしおか たけゆ  
西岡 武優

「ああ、どうしよう。」

私はこの言葉をよく口にします。例えば注意されたり、何かに失敗して落ち込んだりしたときです。ふり返れば、この言葉は、自分が物事をネガティブにとらえたときに使っているような気がします。そんな時は次第にやる気を失っていき、何もする気になれません。

昨年、五年生のクラス替えて、新しい友達に出会いました。その友達は、授業の発表で言い間違えると、落ち込まずに明るく笑い飛ばしたのです。私なら落ち込んでしまうので、前向きな友達がうらやましく感じました。そのしゅん間、何かに失敗しても、友達のようにポジティブに捉えていけば、立ち直ることができるのではないかと、気が付いたのです。

以前、私は体調をくずしてしまい、出された宿題をやれないまま塾に行っていたことがありました。注意されるのかな、無理をしても宿題をやればよかったのかなと、不安の波が押し寄せるばかりでした。しかし、

(この出来事だけで自分の価値が下がるわけでもないから大丈夫。正直にできなかったことを伝えよう。)

そう自分に言い聞かせたのです。すると気持ちが楽になりました。このように、友達の行動をきっかけとして、前向きに物事を考えることで、失敗しても、後にその出来事を引きずらなくなったのです。

私は、このポジティブに物事を考えるということを兄に伝えました。すると兄は、「ポジティブ過ぎても良くないと思うよ。」と言いました。「えっ？ポジティブって悪いことなの？」と驚いて聞き返すと、兄が、「ポジティブが悪いということではなくて、ネガティブにも冷静な判断が出来るという良さがあるよ。だから、全てをポジティブに受け取らずに、きちんと反省するときは反省する、そういうポジティブとネガティブを使い分けることが大事だと思うよ。」と予想もしなかった返事が返ってきました。

私は兄の話聞き、あることに気付きました。それは、ポジティブの全てが良いものでもなく、ネガティブの全てが悪いものでもないということです。これまでずっと『ネガティブは悪いもの』と捉えていました。確かに、ネガティブは不安や心配から自信を無くし、自分の可能性をせばめてしまうかもしれません。しかし、その一方で、今の自分をレベルアップさせることができる武器にもなるのではないかと思います。この武器は、何も考えずに振り回してしまうと、自らを苦しめるものになりますが、正しく使うことで、弱点を克服し、自分自身の成長につながるものにもなると考えたのです。例えば、誰かに注意されて落ち込むのか、それとも冷静に判断をして、反省して次に活かすのか、使い方は人それぞれです。要するに、ポジティブとネガティブのバランスを取ることが、充実した毎日を過ごす鍵になるのではないかと考えたのです。

私がこれらを意識するようになってから、(自分なんてだめだ。)と、自分自身を悪く思うことが少なくなりました。この間、自分が変わったと感じた出来事がありました。学年でひろうする劇の練習で、私だけせりふのタイミングが合わずに注意を受けたことがあったのです。その瞬間、心が折れそうになりました。しかしそこで、何がいけなかったのかを考えよう、まだ時間はあるから何度も練習しようと、前向きに考えたのです。その結果、本番で自信をもってひろうすることができました。

私は、ポジティブとネガティブは比べるものではないと思います。自然界に太陽と月があるように、どちらにも大切な役割があります。何かに失敗しても、この二つの考え方があるからこそ、人は成長していける、そんな良さがあると思えたのです。みなさんも、ポジティブとネガティブ、両方の考え方を意識した生活を、始めてみませんか？



あたら

## 新しいコミュニケーションツール

裾野市立西小学校 六年

きんじょう みう  
金城 実羽

もし、みなさんが悩みをもったとき、どのようにしていますか？

家の人や友達、先生に相談する。自分でがまんする。時には物にあたってしまう。わたしは自分の悩みについてどうしたらいいか分からず、抱えこんでいた時期がありました。

そんな時に出会ったのがネット小説のアプリです。新型コロナウイルスが流行し家族全員が家から出ることができなくなったとき、ふと目にとまりダウンロードをしました。ダウンロードをしてみると、多くの小説がけいさいされていました。ジャンルはコメディ、ホラー、ミステリーなど様々です。また、自分自身が小説を書いて投稿することもできます。さらに、コメント、ブックマーク、ハートなどの楽しい機能は、きっと作者のやる気にもつながると思います。わたしも、色々な人の小説を読み、これらの機能を使いました。毎日、楽しく読むことができ、どんどんとアプリ小説にのめりこんでいきました。

では、みなさんが小学生のネットやスマホと聞くときどういったイメージをもっているでしょうか。検索サイトや「小学生のスマートフォンに対するイメージ」と調べると、多くのトラブルについてイメージする人がいることを感じました。トラブルの中には、「ゲームによる課金」「コミュニケーションツールでき読無視されて、友人と険悪になってしまう」「ワンクリック詐欺」などいろいろなことが挙げられています。確かにどれもこわく、マイナスのイメージがついて回ります。

しかし、わたしにとってこのネットアプリはそんなイメージやトラブルとはほど遠いものとなりました。それは、わたしの悩みについてです。わたしを知っている人、身近な人には言えないわたしの悩み。それをどうしたらいいのか毎日、毎日考えていました。そして、思いついたのが、アプリ内での相談です。もちろん相談することはこわいことかもしれないという思いはありました。そんなこと相談しなくともいいんじゃないとがめられるかも知れないとも思いました。でも、自分の思いを思いっきりはき出したい。だれかに分かってほしい。そして、なかなか表に出せないわたしのおく底をアプリ内に投げたいと思ったのです。しかし、投げ始めて最初に感じたのは後かいでした。本当に見ず知らずの人にこんな相談してもよかったのか。聞いてほしいという思いと、不安な思いとのかっとうでなんだか心が落ち着かなくなりました。そんな思いの中、ついに返信の通知がきました。意を決して、アプリを開きコメントを読みました。そこには「無理しないでね。」「相談に乗るよ。」「好きなようにしていいんだよ。」「自分を大切に。」「つらいときは休んでね。」などわたしにとってうれしい言葉がずらっと並んでいました。そして、自分のことを認めてくれた、自分のことを分かってくれた、それだけで、涙があふれそうになりました。

きっと、悩んでいる人、苦しんでいる人はたくさんいると思います。そして、わたしのようになかなか、身近に言えないことがあるかもしれません。そんなとき、新しいコミュニケーションの一つとしてこのようなネットアプリもあるのではないのでしょうか。

人と人がつながり、コミュニケーションをとる方法は色々あります。その中で、確かにインターネットや SNS など未だにこわい部分があります。しかし、色々な人とつながることで、わたしは悩みを解決することができました。使い方によって自分自身の心のよりどころとなります。

これからも、家でのルールを守り、上手に付き合っていきます。人のことを思い、考えることが、今後インターネットやスマホを通して行われ、心をつなぐ新しいコミュニケーションのツールになるかも知れません。



## その人らしきを出す<sup>だ ゆうき</sup>勇気と 受け入れる<sup>う い</sup>あたたかさ

裾野市立深良小学校 六年

さとう あこ  
佐藤 杏胡

愛知県に行った帰り道、パーキングエリアでトイレ休憩をとりました。最近のトイレはどんどん使いやすくなっています。例えば、男性用、女性用と看板が大きくはっきりと書かれていて、看板は色分けされ、女性は赤色、男性は青色が使われていることが多いです。また、そこには男性と女性で違うシルエットが描かれています。一目で区別がつかうように、これらが大きく表示されていて分かりやすくなっています。また、ベビーチェアがある所には印があります。赤ちゃんと母親が一緒にいるシルエットです。これで、母親が赤ちゃんを抱っこしながらトイレをしなくて済みます。おむつを替える台が設置されたトイレもあります。だから、おむつ交かんをする場所を探す必要もなくなります。また、緑色の看板で、車いすの人専用、障害者専用のマークがドアにかいてあり、利用する人たちは、本当に使いやすくなりました。困らなくなったし、不便でなくなりました。様々な立場の人にとってトイレは利用しやすくなったと言えます。

そんな時、祖母がトイレでの出来事を教えてくれました。女性用トイレに車いすに乗った男性らしき人がいたので、場所をまちがえてしまったのだと思い、「こちらは女性用のトイレですよ。」と、声をかけたそうです。すると、その人は、「私は女ですよ。」と答えたそうです。女性なのに男性と間違えて失礼な言葉をかけてしまったと、祖母は、はずかしそうに話してくれました。

今は多様化の時代と言われ、様々な人がいます。祖母が経験したように、男性か女性か分からないこともあるよな、と思いつつ、見た目では判断できない性的マイノリティ・LGBT、特にトランスジェンダーの人にとっては、トイレはどうなのかなと思いました。車いすを使っていることや赤ちゃんを連れていることは、見た瞬間にははっきりと分かります。しかし、LGBTの人をLGBTだとは、外見では判断できません。さっき、私は「利用する人たちは、本当に使いやすくなった。困らなくなったし、不便でなくなったと言える。」とまとめましたが、本当でしょうか。看板で青は男性、赤は女性と色分けされたことで、性的マイノリティの人達が、使用するトイレを迷うことになり、トイレに入りにくくしていないでしょうか。はっきりとした表示が逆に使いにくく、困らせる原因になっていないでしょうか。女性は赤、男性は青と決められていたら、その人たちはどのように思うのでしょうか。そんなトイレの表示など気にせず、その人らしくすればよいという考えもあります。その人らしくと言うけれど、その人らしきってそんな簡単に出来るものなのでしょうか。私は、自分のやりたいことを一貫してやり通し、好きなことに夢中になっている妹を見て、妹らしきを出して生活しているとは言えないと思います。どうしても周りの目を気にしたり、相手の気持ちを考えたりして、人がその人らしきを出すことは簡単なことではないのです。その人らしきを出すには、勇気が必要です。もしも、女性専用トイレに、見るからに男性の人が入ってきたら、女性の皆さんはどう思いますか。「えっ、何で。嫌だな。おかしい。」と、多くの人が思うでしょう。逆に男性用トイレでも同じような事が起きたら同じ反応をすると思います。「えっ、何で。嫌だな。おかしい。」という言葉は、決してあたたかい言葉とは言えません。その人らしく過ごせるためには、周りに気持ちを受け止めてくれる人、本当の気持ちを言える人が必要だと思います。

みなさんで、その人らしきを出す勇気と、それを当たり前のように受け入れるあたたかさを出しませんか。みんなでその人らしきを受け止める輪が大きく広がり、すべての人が過ごしやすい素敵な世の中になればいいなと思います。

【わたしの主張 2023 静岡県大会 入選作品】



だれ みと よ なか  
誰もが認めあえる世の中に

裾野市立富岡中学校 三年

かわの さな  
河野 咲菜

人は誰もが、自由に考え、幸せに暮らす権利を持っています。赤ちゃんでも、お年寄りの方でも、誰もが平等に持って、命と同じくらい、大切にしなければならないのだと、私は思います。しかし、世界には、この大切な権利が守られていない人がたくさんいると思います。

私が、このように感じたのは、昨年、職業体験でデイサービスの施設に行ったことがきっかけでした。

デイサービスには、手足が不自由な人や目が見えない人がたくさんいました。私は、そこに行くまで、デイサービスという所は、体が不自由な人の生活のすべてを、介護福祉士の人たちが代わりにやってくれているのだと思っていました。だから私も、体験初日は、小さなことにも、すべて手伝ってあげていました。しかし、周りの職員の方を見ていると、利用者の方の行動のすべてをサポートしているわけではありませんでした。私は、

「利用者の方のお手伝いをしないでいいんですか。」

と職員の方に質問しました。そのとき、介護福祉士の方は、

「利用者の方も、すべてのことができないわけではないの。その人ができることは、その人にやらせてあげるべきだと思う。すべてを手伝うということは、その人ができないと決めつけて、やれることを奪ってしまうことになるの。人によっては、差別を受けていると勘違いされてしまうことになると思うの。」と言われました。それまで、私は、優しさのつもりで「障害を持っている人は、絶対にサポートが必要。だから、どんなことでも助けてあげなければならない。」と思っていました。しかし、それは障害を持っている人たちからしたら、「自分は差別されている」とか「特別扱いされている。」と感じていたことを知りました。

だから二日目は、その人がなにかに挑戦しようとしているときは、まず見守って、サポートが必要だと判断したら、少しずつ、助けてあげるようにしました。そうすることで、こころなしか一日目よりも、利用者の方から「ありがとう」と言ってもらえる回数が増え、利用者の方との距離も縮まったような気がして、とても嬉しくなりました。

私は、この二日間の職業体験を通して、誰かがなにかに挑戦するときは、初めからできないと決めつけて手を貸すのではなく、まずは認めて見守ることが大切だということ学びました。そう言っても、障害を持った方にとっては、まだまだ大きな壁が世の中にはあると思います。例えば、店舗などで、段差があったり、車椅子対応のトイレがなかったりするなど、車椅子に乗っている方にとっては、行動が制限されてしまうこともあります。そういう時は、その人の気持ちを尊重するだけでは、すべてが解決するとは思えません。しかし、この体験で得た考え方や見方は、障害を持った方たちだけでなく、誰に対しても、とても大切な考え方だと思いました。人はみんな、得意なことと苦手なこと、できることとできないことがあります。だから、誰かが何かに挑戦しているときは、その場に応じて助けてあげたり、見守ってあげたりと、相手に合わせて支えていくことが大切だと思います。そして、その人が成長する姿を応援してあげたいと思います。新しいことに挑戦する人を支えることはとても大変です。しかし、一番こわいと感じているのは、挑戦する本人であり、勇気をふりしぼって挑戦していると思うのです。だから周りの人は、初めから、失敗することをおそれて止めたりするのではなく、その挑戦を認め、助けを求められたら、その人ができる範囲で助けてあげることが、お互いに一番良い選択だと、私は思います。

【わたしの主張 2023 静岡県大会 入選作品】



いま い  
今を生きる

裾野市立須山中学校 三年

なかむら ひろな  
中村 彪雅

その日もいつもと変わらない朝でした。いつもの道、いつもの友達との何気ない会話。いつものように一日が終わっていくのだろうと、そう思っていました。

小学校の卒業を間近に控え、式の練習をしていたときの事です。僕は貧血を起こし、高さメートル近くのひな壇から、フロアに倒れ込みました。腹部を強打したことで脾臓と胆のうが損傷。ドクターヘリでこども病院に運ばれ、すぐに手術をすることになりました。

「九時間半もよく頑張ったね。偉かったね。」

大きな手術だったそうです。翌日、母は僕にこう言って褒めてくれました。無事に終わったのだと、安心する気持ちが芽生えてくる一方で、それだけの手術、自分の体はいったいどうなっているんだろうと気になりました。ただ、見ようと思っても思うように体が動かなかったので、看護師さんをお願いして、鏡で見せてもらいました。……あまりの姿に声が出ませんでした。お腹につながる七本の管、腕に刺さった三本の点滴。鼻から伸びるチューブ。わずかに足が動くのみの体。鏡には、想像もしない姿が映ったのでした。

昨日までの日常が一変し、ベッドの上だけで過ごすようになりました。大好きな野球ができないばかりでなく、飲むことも、食べることも一切できなくなりました。早く元気になりたい、動き回りたいたいと思いつつも、ほぼすべてと言っていいほど何もできなくなってしまった現実に気づいた時、ぐっと胸が詰まりました。天井を見つめて過ごす時間が重くなっていくほど、苦しい気持ちが募るばかりだったように思います。

卒業式当日、僕はまだベッドの上にはいました。七夕の短冊に担任の先生が書いた「みんなで卒業しよう」の言葉を思い浮かべながら、その願いを叶えられなかった申し訳なさでいっぱいになりました。そして、一緒に過ごしてきた大切な仲間と同じ場にいられないことが分かっていたのに、とにかく、とにかく、つらく感じました。これから先、元の生活に戻っていけるのだろうか。この体はまた動くのだろうか。全力で走ったり投げたりできるのだろうか。もしかしたら、今までのようには……。先の見えない不安をここまで感じたのは初めてのことでした。

幸いにして、二度の手術を経て、体調は回復していきました。野球チームの監督や仲間がプレゼントしてくれた、メッセージやグローブにも勇気をもらい、気持ちが前向きになっていきました。リハビリが進んでいくと、一本、また一本と管が外れていき、入院から一ヶ月、ついに、一度も口にすることのなかった水を飲む許可が下りました。ただの水を飲んで「おいしい！」と思うことがどれだけあるでしょう。体中に染み渡るおいしさは、これまで経験したことのないほどのものでした。水を飲むという、なんの変哲もないことを、こんなふうにするのかと驚きました。退院したあとも、歩いて学校へ行くこと、授業を受けること、グラウンドを歩くこと、ボールを投げること、バットを握ること。日常に溶け込んでいたその一つ一つをするたびに、うれしさがこみ上げました。当たり前だと思っていたすべてが当たり前ではなかったのだと、気づくことができました。

あれから二年が経ち、以前と変わらない生活を送れるようになりましたが、気持ちは大きく変わりました。当たり前を失ったあの感覚を忘れてはいけなく、そう思うと、一つずつを大切に過ごすようになりました。

生活の中にある当たり前ほど、私たちは意識しなくなっていく。身近であればあるほど、気づかずに過ぎ去っていきます。そんな今こそ、立ち止まり、目を向けてほしい。この話を聞いてくれるあなたも、当たり前ではない、今を生きているということに。



かんしゃ おね  
いつもありがとうという感謝を胸に

不二聖心女子学院中学校 二年

はせがわ ゆな  
長谷川 結菜

私たちは多くの出会いに支えられて、今ここで生きています。

いつも話している友達や家族、私たちにたくさんのことを教えてくださる先生たちも、「出会い」によって、私たちを支えてくれているのです。私は、今まで「出会い」について深く考えたことがありませんでした。考えるきっかけになったのは、祈りの会での神父様のお話のなかにあったこの言葉です。

「出会いは神様がくださった奇跡なんですよ。ですから、私たちはその出会いに感謝しなければなりません。」

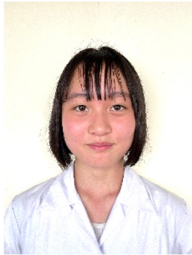
そこで、これまでの自分の出会いについて考えてみました。私は、両親のもとに生まれ、祖父母や親せきにも温かく迎えられると母から聞きました。両親のもとに生まれることができたのも、父と母が出会ったおかげだと思います。やがて幼稚園へ入園し、初めて私のなかでの社会への一歩が始まりました。当時、私は母から離れるのが嫌で、通園バスに乗りたがらず、泣いて抵抗したことを少し覚えています。何度かくりかえしていくうちに、バスに乗って幼稚園に行くことも嫌ではなくなりました。私にとっての初めての小さな社会で、楽しく過ごすことができたのは、泣き叫ぶ私にこりずに寄り添ってくださった先生方や、話しかけてくれた友達がいつもいてくれたからなんだなと思いました。そこで出会った友達とは今も繋がっています。

その後、小学校に入学した私は、初めての給食に戸惑い、重いヘルメットとランドセルを身につけ、憂鬱な気持ちで通学していました。まるで、毎日未知の世界に行っているような気分でした。しかし、そこで出会った担任の先生は、私の憂鬱な気持ちを分かってくださって、何度も励ましてくださいました。その先生とは、今も年賀状や手紙でやりとりをさせてもらっています。小学校六年間では、たくさんの友達や先生方と出会うことができました。出会うことができた先生方が私にくださった様々な言葉は、今も私のなかで大切なものとなっています。そして今もまた、不二聖心で私と同じ志を持った仲間と出会い、共に過ごすことができています。仲間と過ごしていく中で、私は「多くの出会いで支えられている」ということに気づくことができました。不二聖心の仲間とは「出会い」という奇跡によって、この教室で共に過ごすことができています。この学校に温かく迎え入れてくださった先生方にも感謝したいです。だからこそ、仲間を大切にすべきだと私は思います。仲間だけではなく、家族も同様です。いつも、励ましてくれたり助けてくれた家族に感謝しています。家族がいたからこそ、今の学校に通うことができていますし、今の自分がいるんだと思います。しかし、私は時に両親とけんかしてしまうことがあります。日頃から私を支えてくれているのに、どうしてあんなことを言ってしまったんだろうとけんかしたあとに後悔しますが、私の意見も聞いてほしいという気持ちもあり、なかなか謝る気にならない時があります。そんな時、私はいつも小学校六年生の頃の自分を思い出します。受験勉強で何度も励ましてくれた両親への感謝の気持ちを思い出して、改めて感謝の気持ちを伝えるようにしています。普段は「感謝」の気持ちを忘れがちですが、「感謝」の気持ちを伝えることで、自分がこんなにも多くの人に支えられているのだということに気づくことができます。

当たり前のような毎日も、周りのみんなが支えてくれているからこそ、楽しく過ごすことができています。だから、仲間と過ごすことができる一日一日を大切にしていこうと感じるきっかけにもなると思います。「いつもありがとう」という言葉は、自分自身と相手の心を温かくできる言葉です。

私は不二聖心に出会わせてくださった神様に、またこの学院に入学するためにそばで支えてくれた家族に、そして私とは異なる出会いを重ねた「奇跡」にあふれたこの教室に集まることができた仲間、心をこめて「いつもありがとう。これからもよろしくお願ひします！」と伝えたいです。

【わたしの主張 2023 静岡県大会 入選作品】



ひろ こ けんりじょうやく  
 広がれ！子どもの権利条約

裾野市立東中学校 三年

かとう ゆな  
 加藤 優那

去年の夏、私は母に勧められSDGsのキャンプに参加しました。キャンプには、全国から学生たちが集まり、世界が抱える問題をテーマに話し合いをしました。

正直、私はキャンプに参加するまでSDGsに対するの興味がありませんでした。でも、キャンプに参加したことで、日本以外の国では今も、栄養不足や感染症、不衛生な飲み水で多くの子どもが死んでしまうこと、教育を受けることができない子どもがいることを知りました。そして、子どもの権利条約というものに出会いました。

子どもの権利条約は、人は生まれたときから人権、権利を持っていると国連が定めた条約です。しかし、日本では、子どもの権利条約という名前を聞いたことはあっても、内容まではあまり知られていないというのが現状です。私もキャンプに参加するまでは聞いたことすらありませんでした。

私は、今、受験生となり進路を考えている最中です。私の家では、親が意見を言いながらも私の考えを聞いてくれます。そして、自分自身が納得する高校を選びなさいと言われていて、意見が食い違っても、最後まで話を聞き、私が納得するまで話し合ってくれます。でも、日本全体で見ると、子供の考えや意見を聞かずに親の意見で将来を決められてしまっている人が多くいるそうです。私は、親と喧嘩したときでさえ、暴言や暴力は一度も受けたことはありませんが、子供に暴言を吐いて苦しめたり、暴力で殺してしまったりする親、体調を崩したとき、病院に連れて行かない親もいます。ニュースでもそのような事実がたくさん報道されています。

子どもの権利条約の中には、意見を表す権利や、親は暴言や暴力を振るってはいけないという決まりがあります。今、このような状況の中、日本で子どもの権利条約が守られていると言えるのでしょうか。どうしたら、子どもの権利が守られるようになるのでしょうか。

まず、多くの大人に子どもにも権利があるということを知ってもらう必要があると考えました。そこで、私は、市区町村のホームページや産婦人科、母子手帳に子どもの権利条約を載せるべきだと思います。子どもができたら、市区町村のホームページで必要な制度を調べると聞きました。また、子供ができたら、親は必ず産婦人科に通います。母子手帳も受け取ります。子どもができた際に、必ず目にする施設に掲示したり、たくさん目にするものに載せたりすれば、自然と子どもの権利条約について知る人が増えると思います。そうすることで子供にも権利があるということを多くの大人が知る事ができます。これは、すぐに行動できることだとも考えています。

また、子どもの権利条約は、権利をもつその子供自身がこのことを知らないという意味がありません。条約の内容は難しく、なかなか子どもが進んで読むとは思えません。そこで、子供が権利条約を知るためには、SNSでの発信や絵本を作ることが有効だと考えました。SNSは今の若者には身近で、情報源の一つとなっているし、絵本なら小さい子供から学生までもが簡単に知ることができ、広まると考えました。子どもの権利条約を日本中の人が知り、広まることでこれからの日本を作っていく私達子供にとって生活しやすい世の中になっていきます。

しかし、権利があるということは、責任もあるはずで、権利をもつということは、一人の人として認められ社会の一員となることだと思います。権利があるからと好き勝手をするのではなく、社会の一員としての振る舞いを理解するべきです。

子どもの権利を、大人も子どもも理解することで、日本をより素晴らしい国にしていけると思います。そのためにも、私は多くの人に子どもの権利条約を知ってもらいたい。そう強く願っています。



【わたしの主張 2023 静岡県大会出場 優良賞受賞作品】



しあわ ねだん  
みんなが幸せになれる値段

裾野市立西中学校 三年

ささはら れいか  
笹原 怜夏

「高い！」お店で売っていたスマホ拭きを見てそう思いました。私が修学旅行で京都に行ったときのことです。自分用のお土産を探していると、そのスマホ拭きを見つけました。友達と眺めていたら店員のお姉さんが見本用の生地を実際に見せてくれました。触り心地もよく、買おうかなと思いついて値段を見ると九百円近くするものでした。縦十三センチ、横八センチほどの小さな布でこんなに高いの？と思いつながらも、デザインや色に惹かれて購入してしまいました。やっぱり高かったかな、家族に何か言われるかな、と不安な気持ちがあり、家に帰るなり「スマホ拭き買ったんだけど高かったかなあ」と話したところ、意外にも家族からは「京友禅と書いてあるし、そのぐらいすると思うよ」と言われました。家族は値段に納得している様子でしたが、私は納得しきれない気持ちがあり、家族の言う「そのぐらいする」とはどういうことなのか調べてみました。

購入したスマホ拭きは京友禅でそれは世界に誇る伝統工芸だそうです。着物と同じ工程で職人さんが手染めし、同じものは一つもなく、素材は混じり気のない絹百パーセント、軽くて丈夫で静電気が起きにくい性質があり、パッケージも着物を保管するためのたとう紙を使用しているといった様々なこだわり、そして京都でしか買えないというものでした。また、着物を着る人がほとんどいない今、気軽に京友禅の生地を手にとってもらいたいという思いが込められているとも知り、伝統的な職人技、素晴らしい素材、そして伝統文化を継承していくためには職人さんに相応の収入がなければ成り手がいなくなることを考えると決して高くはなく、ふさわしい値段がつけられていたのだと気づきました。

世界に目をむけてみるとどうでしょう。皆さんはフェアトレードを知っていますか？フェアトレードとは貧困のない公正な社会を作るために途上国の経済的に弱い立場の生産者と先進国などの経済的に強い立場にある国の消費者が対等な立場で行う貿易のことです。

母は毎年秋になると販売されるフェアトレードのオーガニックチョコレートを購入しています。スーパーでよく売られているチョコレートの三倍ぐらいする金額で、そんな高いものをなぜ買うのか母に尋ねました。母は、「とても美味しいし、この会社の取り組みを応援したいから」と答えました。

カカオの原産国の多くは発展途上国で、主な問題は貧困からくる児童労働です。フェアトレードの取り組みで、カカオ生産者が適正な収入を得ることができれば貧困が解決し児童労働もなくなります。私たち消費者は普通のチョコレートに比べて高い値段のフェアトレードチョコレートを買おうとは思いません。しかし、その値段はカカオ生産者に適正な対価を支払うためです。カカオ生産者の売り上げが増えると地域の経済が成長し、生活も豊かになります。私たち消費者がフェアトレードのチョコレートを買うために支払ったお金はそういったことにつながっていると思うと、決して「高い」とは言えないのではないのでしょうか。

物をできるだけ安く買いたい、という気持ちは誰にでもあると思います。良い物を安く買えたらとても満足しますが、その影には生産者の生活があります。利益が少なく苦しい生活を私たちが気づかぬうちに強いてしまっているかもしれません。その物の後ろにある生産者のことを考え、必要以上に割引きを求めない、適正な値段で購入する、それが貴重な技術を守ることやみんなが豊かな生活を送ることができる世界につながると考えます。

私は商品の生産者、技術のことも考えて手に取るようになりました。値段を見てすぐに高いと言うのは生産者の人たちにとても失礼なことだと思います。またフェアトレードの認証ラベルを見かけたときには積極的にそちらを選ぶようにしています。このようなことはみんなが豊かになるために必要な行動だと考えます。値段を見て高かったとき、まずは思い出してください。これはみんなが幸せになれる値段かもしれないと。そう考えられる人が一人でも増えることを願っています。



じぶんじしんか  
自分自身を変える

裾野市立深良中学校 三年

いのうえ あいさ  
井上 愛彩

私の先生は、「やるか、やらないか」だと言います。ロシアの文豪トルストイは、「誰もが世界を変えたいと思うが、誰も自分自身を変えようとは思わない」という名言を残しています。そこから「平和を望むなら、自分自身を変える」ことこそが、今私たちがすぐにも「やるかやらないか」を突きつけられていることであり、そう思うきっかけになった出来事があります。

私は二年生のときのお盆に、お墓参りに行きました。そのとき、私が知っているお墓とはやや違うお墓が目にとまりました。少し気になって、母に聞いてみると、そのお墓は戦争で亡くなった人のお墓と慰霊碑でした。母は、「私が小学校のとき、このお墓に来て、戦争の話聞いたんだよ。でも、もうほとんど忘れてしまったんだけどね。」

母の叔父は、兵士として戦争に行き、戦地では鉄砲の弾が、こめかみのすぐ横を通ったそうです。あとわずかでもずれていれば、死んでいたかもしれないと、母は青く澄んだ空を見上げながら、過去を思い出すように話してくれました。私は背筋が凍るような思いで聞き入りました。常に死と隣り合わせの異常事態。戦争を生き抜いた人がいるから、私がここにいること、誰か一人でも欠けていたら、戦争は「その人の命」だけでなく、「未来の命」も奪ってしまうことを思い知らされました。

この話を聞いてから私は戦争について知りたいという思いが強くなりました。それまでの私は「平和ばけ」という言葉が当てはまるほど、私が生きている今には関係ない、過去のことで全くといいほど関心はありませんでした。そんな私に、戦争という言葉の重みはウクライナとロシアの戦争で、現実味を帯びてきたのです。

そんなとき、家族で旅行に行くことになりました。家族の目的は厳島神社でしたが、私にとっては「原爆」という二文字が大きな目的となりました。私にとっての広島は、原爆ドームを象徴とした百二十万人が住む観光都市としか認識していませんでした。そして当日、バスに乗り込んだ私の目に映ったのは、高いビルが建ち並び、多くの車と電車が通る大通りにたたずむ、古びたドームの光景でした。そして私は、あの日の名残は、物言わず道端に生えている木に息づき、人々の心の中に宿っていることを、この後知っていくこととなるのです。

原爆ドームは補修を重ねてはいても、今にも崩れそうな状態にありました。それだけでも原爆の威力を見せつけられる思いでしたが、その後の資料館の展示物は、私の想像を遥かに超えていました。戦後七十年は植物は生えないと言われていましたが、早くに復興を遂げることができた広島は、戦争を生き抜いた人々の努力の結晶だと思います。私の広島旅行は「戦争」を知る上で特別な旅行でした。戦後七十七年たった今でも、原爆記念日には世界中の人々が広島に注目し、平和を叫びます。でも、その平和は、実現していません。その乖離に違和感を覚えます。私は広島に行ったからこそ、戦争を憎むだけでいいのかと、もどかしくなりました。それだけでは足りないのではないのでしょうか。

あるとき、テレビで車やバイクが何台も絡む交通事故のニュースが流れました。その事実だけでなく、道路の脇を歩いていく通行人が誰一人として立ち止まりもせず、眺めながら歩いて行く様子に、私は怒りや哀しみ、恐怖さえ覚えました。どうして傍らに駆け寄ってあげないのだろうと。この「無関心」は、戦争に対するの思いと似ている気がしました。「見て見ぬふり」という「無関心」、そして放っておいたらこの先どうなるかという想像力の欠如は、戦争をする人、戦争を深く知ろうとしない人と同じだと思うのです。

この交通事故と戦争への「無関心」は、決して別のことではないと思います。今の私には、どんなに悲しくても現地に赴くことも、テレビで見る私よりも小さな子たちを救い出すことも、そもそも戦争を止めることもできません。でも今すぐ行動できることは「無関心」ではなく協調することを、まずは自分が実践し周囲に働きかけていくことだと思います。対処するのではなく、未然に防ぐ。人を批判して自分を保つ日常は、小さな戦争と言えます。平和を希求しつつ、自分自身を変える。微力ではあっても、まずは、そこから「やるか、やらないか」なのです。

せ だ い こ こ う り ゅ う  
世代を越えた交流を



不二聖心女子学院高等学校 一年

もとやなぎ あ こ  
本柳 亜呼

クリスマスの近いある日、ふとテレビを見ると世界各国の街の様子が話題となったニュースが流れていました。私が見た時にはちょうどニューヨークの街の様子が映されていて、日本とは比べものにならない華やかな装飾の数々にやはり海外のクリスマスは素敵だなあと見ていると、住民へのインタビューでボランティアに関する話題が出てきました。彼が話していたボランティアの内容は、一人暮らしの高齢者に週一回話しに行く、というものでした。私はボランティアと聞くと少し面倒な作業をイメージしてしまうので、「本当に話すだけのボランティアなんてあるの？」と興味を持ち見入ってしまいました。

高齢者の家を訪ねにいボランティアの人の様子は、お友達の家遊びに行くかのようにウキウキしているようにも見えます。手作りのお茶菓子を持って行き、「この前言ってた紅茶買ってきたわよ」などお茶を飲みながら話している様子は二人ともとても楽しそうで、その姿はずっと前から仲の良いお友達のご様子でした。もちろん年齢はとても離れているのですが。

狭いアパートはクリスマスオーナメントで綺麗に飾られています。その家の高齢者はパンデミックで外に出られなくなってから、外出する機会が減り、そのまま家にいることが多くなって人との繋がりが減ってしまったそうです。高齢者の多くはSNSなどを使いこなせないため、家にいると比較的元気だった高齢者でも元気がなくなってしまうそうです。しかし、そんな高齢者もボランティアとお話するだけでとても笑顔になっていました。スマートフォンなどの使い方も教えてもらい、都会での一人寂しいクリスマスの過ごし方が少し変わったようでした。ボランティアする方へのインタビューでも、年を重ねた人はさまざまな人生経験や知識を持っているので話すのはとても楽しいと言っていました。本当になんて素敵な関係なのでしょう。

解説では、アメリカは日本ほど親の面倒を見る風習がないと言っていました。高齢者へのボランティアと聞くと介護をして手助けするものだと考えがちですが、それほど介護や手助けを必要としない高齢者もたくさんいるのです。年をとれば人はだれでも目や耳が不自由になり、身体のどこかが悪く動作が遅くなったりしますが自分の事は自分でできるお年寄りも多います。そのような人は施設に入らず、一人暮らしをしていたりするので。ニューヨークの中でも小さな町のニュースでしたが気に留まることが多く、不思議な気持ちになりました。

近年は核家族化が進み、祖父母と同居している家庭も少なくなって、一人暮らしをしている比較的元気な高齢者が日本にも多います。自分の身内には優しくても、知らない高齢者だと邪魔者扱いし差別的な態度をとってしまうことがあると思います。私も一人でお買い物をしている高齢者の方がスマートレジでうまくいかない様子を見かけても、自分の祖父母や知り合いなら声をかけますが、知らない人だと早く店員さん来て助けてあげないかな…と声をかける勇気がなかなか出せません。本当は少し声をかければ喜んでくれたのかもしれないと後から思います。高齢者に限ったことではありませんが、なるべく関わらないでいた方がいいと無意識に考えてしまう人が多くなっているように感じます。つまり、ふれあいの機会が減っているのです。

核家族化もそうですが、パンデミックですますます触れ合いの機会が減り、日本もアメリカと同じ状態になってきているのではないのでしょうか。私たちは高齢者にスマートフォンの使い方を教えてあげることができます。介護の資格はないですが、お話を聞いてあげることもできそうです。きっと長い人生の豊富な経験を私たちに話してくれます。私には同居していた祖母がいましたが、二年前に亡くなってしまいました。今ならもっと祖母の話聞く耳を持ったろうし、聞きたいことも違っていたらと思うと悔やまれます。外部とあまり接触のない高齢者のお宅にお邪魔して、お菓子を食べながら他愛もないお話を聞いたり、聞いてもらったりする、簡単なボランティアがもっと広がってほしいなと思います。今の私と、もっと大人になった私とでは話す内容が変わっていくのですが、それも私の成長を見守ってもらえているみたいでおもしろそうです。ボランティアの枠を超えて長く付き合えるような関係になれたとしたら、それもまた素敵なことなのではないのでしょうか。



しつぷ そく きゅうせいしゅ  
タンパク質不足の救世主

県立裾野高等学校 二年

かつまた りしん  
勝又 琉心

突然だが皆さんは、肉や魚、卵は好きだろうか。私はとても好きだ。これらは栄養素のうち、タンパク質に分類される。タンパク質は、私たちの身体を作るために大切な栄養素だ。つまり、肉などはただおいしいだけではなく、私達が生きるために欠かせない。しかし、このタンパク質が将来、世界から不足する危機が訪れるかもしれないのだ。

日本では少子化が進む一方で、世界では人口が増えている。それにより、食糧、特にタンパク質が不足する予想が出ている。インターネットでは、早ければ二〇三〇年にはタンパク質が足りなくなるという予想もある。この危機に対し、一つの解決策として挙げられたのが、「昆虫食」。昆虫を食べるということだ。

「昆虫」と言ったら、捕まえて楽しむイメージがある人。虫だから苦手だという人。様々だろう。しかし、この昆虫は肉や魚と同じように、タンパク質を多く含む。「国連食糧農業機関」の報告書によると、生の状態百グラムあたりのタンパク質は、牛が十九から二十六グラム。バッタが三十五から四十八グラムらしい。つまり、牛よりもタンパク質の量が大きく上回るのだ。また、タンパク質以外にも、この昆虫には多くの栄養を含む。骨や歯を作るマグネシウム、貧血を防ぐ鉄など。忙しい日常生活では摂取しづらい栄養素も多い。この昆虫には、将来不足するかもしれないタンパク質中心に、多くの栄養が含まれる。

また、メリットは栄養面だけではない。昆虫は、肉や魚、卵などと比べて、生産や加工がしやすい。イギリスの昆虫食製造や販売を運営する組織の調査によると、昆虫は牛、豚、鳥などに比べて、生産に必要な面積が少ない。それぞれ一キロ分の食糧を作ろうとしたとき、牛は昆虫の十倍もの土地が必要になるらしい。そして何より、牛や豚、鳥は育てるのが大変だ。人が食べられるような大きさに成長させるまでに、何年も掛かる。エサもたくさんやらなければならない。しかし、昆虫は、成長までの時間は最短一週間。エサも水も、牛などに比べれば圧倒的に少ない。

このように、昆虫食は栄養面からも、生産するコスト面からも、たくさんのメリットがある。一方で、昆虫食はあまり広がっていない。去年の十一月、ある高校の給食でコオロギパウダーを使ったコロッケが提供されたが、「子どもにコオロギ食を出すとは何事か」と批判が殺到した例もある。食べる・食べないの選択ができたにも関わらず、だ。

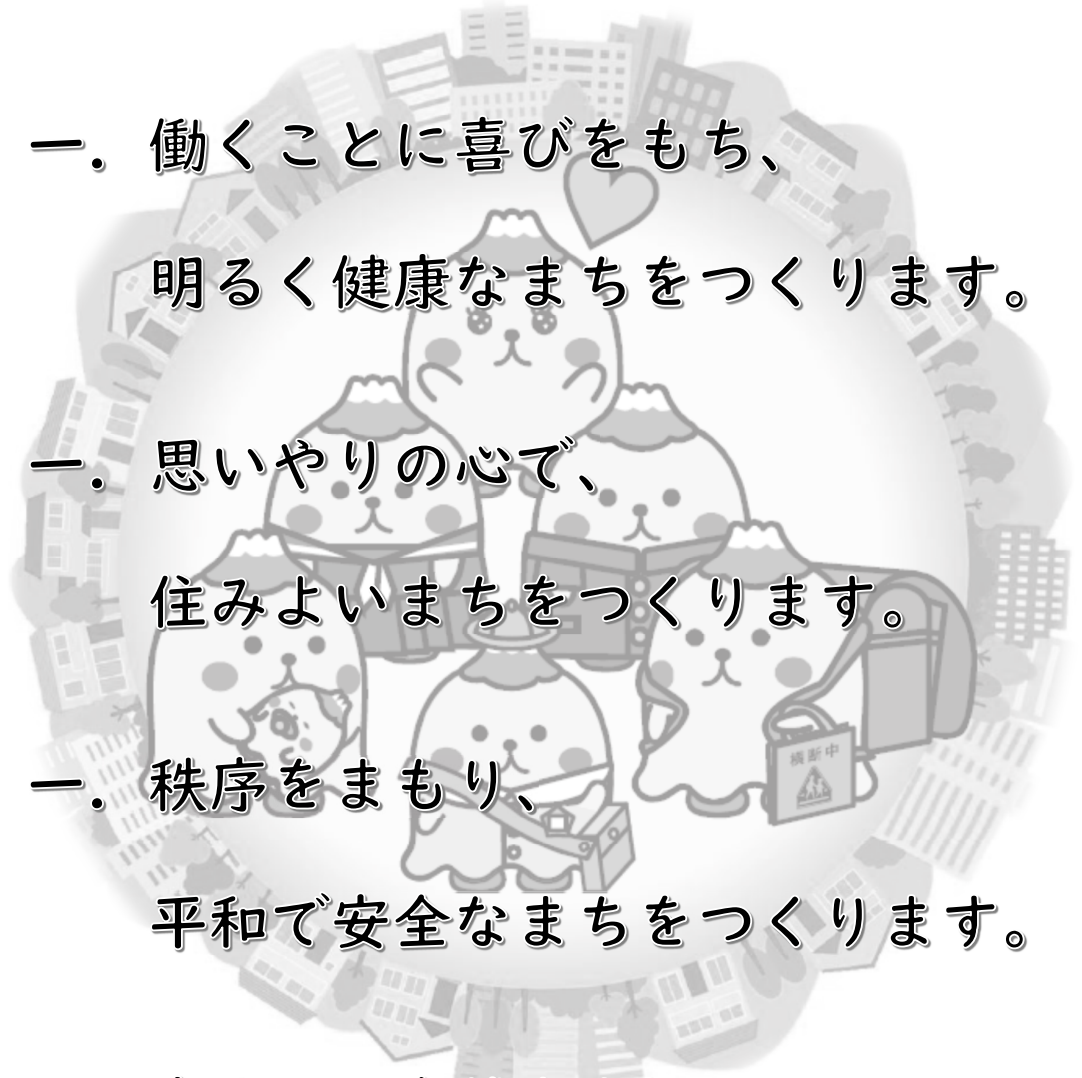
こうした批判の原因を考えると、「アレルギーの心配」「昆虫の見た目に対する拒否感」が挙げられるのではないかと。ただ、「アレルギー」については、「国連食糧農業機関」で心配がないことが明らかになった。そうすると、一番大きな壁は、「昆虫の見た目」だろう。

しかし、昆虫食は、昆虫をそのまま食べることを意味しない。現代では、昆虫のパウダーが含まれている食品も多くなっている。例えば、無印良品には、昆虫のパウダーが含まれているせんべい、チョコレートランチが販売されている。インターネットでも、昆虫パウダーから作られたパスタスナックがある。味はその他の食品と大きく変わることはない。現に、私も無印の商品を食べたが、普通に完食できるほどおいしかった。

それでも「昆虫食はやりたくない」という人もいるかもしれない。そもそも、普段から食べ慣れないものを口にするのは、勇気がいる。しかし、早く七年後。私達に「タンパク質不足」という危機が訪れるかもしれないことは、心の片隅に置いて、このタンパク質不足を救う「昆虫」にチャレンジするのも、決して無駄なことではない。だからこそ、少しずつでいいので、食べてほしいと私は思っている。

# 裾野市民憲章

わたくしたち裾野市民は、麗峰富士のもと、  
その気高く美しい姿のように、人間性豊かな  
平和都市を理想として、この憲章を定めます。

- 
- 一、働くことに喜びをもち、  
明るく健康なまちをつくります。
- 一、思いやりの心で、  
住みよいまちをつくります。
- 一、秩序をまもり、  
平和で安全なまちをつくります。
- 一、恵まれた自然を大切にし、  
美しいまちをつくります。

令和5年度 第42回

わたしの主張裾野市大会 発表作品集

令和5年9月 発行

編集・発行 裾野市教育委員会生涯学習課

〒410-1102 裾野市深良435番地

電話 055-994-0145

主催 裾野市・裾野市教育委員会

主管 裾野市青少年育成推進員会

協賛 裾野ロータリークラブ

